

設問 次の文を読んで著者の主張に対するあなたの意見を六〇〇字以上八〇〇字以内で述べなさい。

国民の生活水準があがり、健康管理がきちんとおこなわれ、医学知識がいまわったことによって、私たちの平均寿命がいちじろしく伸びた。人々が長寿になること自体はよろこばしいことであるが、老年期は青年期や壮年期にくらべると、いろいろと苦しみが多い時期でもある。

まず、老化により、からだにいろいろな故障がでたり、若いころほど元気には過ごせなくなる。自分の伴侶をはじめとして、近い人の死に次々と出会うことも多い。また、自分の身の回りのことをするにも、他の人の手を煩わせなければならぬことも次第に多くなる。遠慮して我慢しなければならぬことも増えてくる。物忘れをはじめとした精神的な衰えを感じる人も多いである。

このような老いの寂しさをよくわきまえて、若いうちから心の準備をしておく必要があるのではなからうか。そのためには、若いうちに老いとは何かということを知らなければならない。その最善の方法は、若い人々が高齢者と接する機会を増やすことである。現在、高齢者の介護の人手不足が社会問題として浮かびあがっているが、それはすべてお金で解決しようとしているためであるように思われる。生産性という視点から目をそらせて、精神的なものに目を向けると、これほど豊かな資源はないということに気づくであろう。どんな小さな子供でも、高齢者を喜ばせることができるし、自らを高齢者と思っている人も、まだ社会に参加できるといふ自信をもつであろう。子供だから、老人だからといわず、障害者や高齢者の介護にかかわり、そこから得られる精神的な喜びを一般の人々が知るとき、はじめて高齢化社会の問題は解決すると私は考えている。

介護は汚い仕事でも辛い仕事でもない。それを超える大きな感動のある仕事になり得るものである。そのことに人々が気づかず、汚い仕事として厭いつづけるかぎり、介護は汚い仕事でありつづけるであろう。

介護を汚い重労働にしているのは、人々の意識そのものであるということに気づいていただきたいと願ってやまない。

柳澤桂子「生と死が創るもの」(草思社)より抜粋

(注意) 解答用と下書き用の原稿用紙(いずれも横書き八〇〇字詰)を各一枚ずつ配布します。解答用原稿用紙の指定欄に受験番号・氏名を記入した上で横書きで記述し、解答用紙のみを提出して下さい。